

# 「推論する力～心の授業より～」

12月7日（火）の5校時に、5・6年生合同で「心の授業」の学習をしました。竹内吉和先生（府中町教育委員会特別支援教育アドバイザー）が「推論する力」をテーマに、ジャンケンを中心としたゲームを基にして、人の心を考えること、また、相手にどのようなメッセージを送ることが望ましいのかをペアで交流しながら学習しました。

初めは、シンプルにじゃんけんゲームをしました。相手が何を出すかを予想してじゃんけんに勝つことも「推論する力」だと教えていただきました。竹内先生が考案された「セブンイレブンじゃんけん」も盛り上がりました。

次に、ペアでメッセージを送る側と受け取る側に分かれて交流をしました。表情とジェスチャーだけで相手に、二つのメッセージを伝えるというものです。受け取る側は、どんなメッセージが送られるのかわかりません。お題は、①「頑張りなさい！」②「よく頑張っているね。」の二つです。一つ目の「頑張りなさい！」では、拳を握り、目がつり上がった状態で表現する児童が多かったのですが、二つ目の「よく頑張っているね。」では、にこっと微笑み、ハートを手で表現する児童がいました。伝えるメッセージが変わることで、表現の仕方、表情が変わりました。それによって、メッセージを受け取る側も柔らかい表情に変化していきました。

最後に、マイナスのメッセージとプラスのメッセージのお話がありました。ユガミンという、マイナスのメッセージを発するキャラクターの紹介です。例えば、「ジャンパー」というキャラクターは、「私のこと嫌いになったのかも」と相手に何も確認していないのにも関わらず、マイナス方向に飛躍させて考えてしまいます。他にも、「自分が悪いことしたのかも」と悩む「ジーン」、 「あの子は意地悪な子だ」と相手にラベルを貼ってしまう「ラベラー」などです。これはいけないなと思いつつも、自分を振り返ると、ドキッとすることもありますよね。相手とより良い関係を築くための大切なポイントを教えていただいた貴重な一時間でした。授業の終わりに、竹内先生から「プラスのキャラクターを作ってみてください」という宿題をいただきました。児童が考えたプラスのキャラクターを紹介します。



相手の心を推論して、じゃんけん列車の王者に！



「頑張っているね。」  
にっこり表情で表現したよ。



プラスの表現は、なんだか照れくさい。でも、あったかい。

～設定～  
Aくんが町を歩いていると、向こう側の通りに友達のBさんがいた。挨拶したけれど帰ってこなかった。  
あなたは、Aくんから相談を受けました。どのようなメッセージを送りますか。



名前：プラスン（山下さん）  
「声が聞こえなかつただけだよ。もう一回言ってみたら。」



名前：キイター（有田さん）  
「明日Bくんに聞いてみて。気づいていなかっただけなのかもしれないよ。まだ何も確定していないから悪い方に考えないでね。」

